

開催日: 2024年11月14日(木)
受付開始: 9:30 4F コンベンションホール

後援: (国研)産業技術総合研究所

開会の挨拶	
10:00-10:05	山崎 陽生 日本NCSLI会長 / キーサイト・テクノロジー株式会社
講演	
10:05-10:35	講演[1] JIS B 7742 材料試験機-速度の校正方法及び検証方法の紹介 JIS B 7742 Material testing machines-Introduction to Calibration and verification of speed 永井 康弘 Yasuhiro Nagai 一般財団法人 日本品質保証機構 Japan Quality Assurance Organization(JQA) 2023年8月に制定された材料試験機の速度校正規格JIS B 7742について紹介する。材料試験機の校正規格は、力計測系の校正(JIS B 7721)や伸び計システムの校正(JIS B 7741)に定められているが、速度校正についてJIS規格では定められていなかった。その上で、産業界からの要望を受けJIS B 7742「材料試験機-速度の校正方法及び検証方法」が制定された。本講演において規格の概要及び実際のデータを用いた不確かさの算出例を紹介する。
10:35-11:05	講演[2] ロードセルの単体校正 Calibration of load cells alone 岩田 哲士 Tetsushi Iwata 株式会社A&Dマニファクチャリング A&D Manufacturing Company, Limited 力計はロードセルと指示装置を組合せた計測器であるが、力計校正事業においてはロードセルのみの校正を行ういわゆる「ロードセルの単体校正」の需要が一定程度ある。その目的と弊社における校正方法について、力計の校正全般の話を変えて説明する。また、海外における同様の校正方法についても触れる。
11:05-11:30	休憩 「展示会」
11:30-12:00	講演[3] ISO/IEC 17025を考慮した自動校正の活用 Use of automatic calibration considering ISO/IEC 17025 馬淵 瑤子 Yoko Mabuchi 株式会社テクトロニクス&フルーク Tektronix&Fluke Corporation 昨今、あらゆる場面で自動化が進み、人材不足、ミスの低減や改竄防止、時間の短縮による効率化、情報の一元管理など幅広く活躍が見られる。校正作業においても、自動化は様々な問題点を改善させるべく導入する企業が増えている。本講演では校正における自動化のメリットおよび、不確かさやガードバンドをはじめとする、ISO/IEC 17025 の内容を取り入れているシステムについても紹介する。
12:00-12:05	日本NCSLI 総会
12:05-13:45	休憩 (昼食) 「展示会」
13:45-14:15	講演[4] 高精度層流式気体流量計の校正手法について Fundamental calibration system for high-precision gas mass flow meters 増田 清弥 Kiyomi Masuda 株式会社大手技研 Ohte Giken, Inc. 大手技研では2013年度から一般校正として気体流量計の校正サービス提供を開始した。本講演では、現在一次標準として所有する気体流量校正設備(電子天びんを用いた動的質量法)による高精度層流式気体流量計の校正手法や、これらに関連した今後の取り組みについて紹介したい。
14:15-14:45	講演[5] オシロスコープの校正について How to calibrate an oscilloscope 山崎 俊 Shun Yamazaki 株式会社テクトロニクス&フルーク Tektronix&Fluke Corporation オシロスコープ校正の入門編として、アナログ・オシロスコープとデジタル・オシロスコープの校正方法の違いについて解説する。また、FLUKE製キャリブレーションの各種製品仕様や、自動校正システムを構築する初めの一歩を紹介する。
14:45-15:15	休憩 「展示会」
15:15-15:45	講演[6] 株式会社村田製作所の校正業務 Murata's challenge of calibration for being trustworthy 阿部 隆行 Takayuki Abe 株式会社村田製作所 Murata Manufacturing Co., Ltd. 本講演では、株式会社村田製作所の校正業務における野洲事業所と横浜事業所の取り組みを紹介する。各事業所で実施している校正量目ごとの詳細や、効率化を推進する具体的な施策について説明する。この取り組みにより、品質向上とコスト削減を両立させ、顧客満足の向上に寄与している。
15:45-16:15	講演[7] 放射温度計の校正の不確かさ評価における信頼性向上への取り組み Some approaches to improve the reliability of an estimation of radiation thermometer calibration uncertainties 小池 真利子 Mariko Koike 日本電気計器検定所 Japan Electric Meters Inspection Corporation(JEMIC) 放射温度計の校正において、使用する黒体炉の実効放射率や放射温度計の面積効果は測定結果に影響を与えるため、校正の不確かさとして考慮する必要がある。これらの値は製造者の仕様等を参考にすることが多いが、実際には、製品の個体差があることが分かっている。そこで、これらの値を求める方法を構築し、不確かさ評価の信頼性向上につながる取り組みを行った。本講演では、これらの概要を紹介する。
16:15-17:00	講演[8] 低周波領域における振動加速度評価技術の開発 Development of vibration reliable technology in low-frequency range 野里 英明 Hideaki Nozato 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, National Metrology Institute of Japan(AIST, NMIJ) 産業技術総合研究所では、世界的な社会課題であるインフラ老朽化診断に使われる振動センサの微小振動計測信頼性を確保するための評価技術を開発した。振動センサによるインフラの常時モニタリングでは、低ノイズMEMSタイプのデジタル出力型加速度センサが主流となることが予想されるので、本講演ではその評価技術の開発内容や取り組み等について報告する。
17:00-18:30	懇親会 会場: 4F コンベンションホール

※講演プログラムは事前の予告なしに変更する場合があります。ご了承下さい。